



第70回青少年読書感想文全国コンクール 自由読書部門 毎日新聞社賞 受賞

『路傍の石』を読んで

この度、青少年読書感想文コンクールで毎日新聞社賞を

いただくこととなりました。このような光栄な賞をいただけるとは思っていませんでしたので、驚きの気持ちでいっぱいです。私が読んだ『路傍の石』という作品は、自分の置かれた境遇にひたむきに向き合いながら、夢や希望を見い出して自らの道を切り拓いていく姿が描かれています。そして、この作品の一番のポイントは、未完のまま終わっているところだと思います。この作品が発表された時代には、厳しい検閲が行われていました。そのため、物語は、主人公が新たな苦難に直面していくところで終わっています。主人公の姿と自分を重ねていた私は、ここからは自分の人生は託されている、と感じました。主人公のまっすぐな生き方からたくさんのヒントをもらえる、一步踏み出したいときにぴったりの作品だと思います。最後に、この受賞を糧に、これからも努力していきたいです。(2年3組 高橋里穂 三本木中学校出身)



第70回青少年読書感想文全国コンクール表彰式
主催 公益社団法人 全国学校図書館協議会 毎日新聞社 後援 文部科学省 こども家庭庁 協賛 サントリーホールディングス株式会社

～各部活動の活躍～

文芸部

「かがわ総文2025【文芸部門・俳句】宮城県代表に選ばれて」

〈入賞句〉

「終バスへ部活後向かう春の月」 「絵葉書は師より入道雲と橋」 「過去問とカロリーメイト雪月夜」
(県高校文芸作品コンクール俳句部門優秀賞)

この度、私が出品した俳句が入賞して、かがわ総文祭 2025に参加させてもらえることとなりました。今回のコンクールでは俳句の他にも短歌や詩、散文などに出品しましたが、その中で私に一番合っていると思っていた俳句で県の代表に選ばれたのはとても嬉しいです。総文祭では、私と同じように俳句を作っている人、俳句が好きな人が集まります。貴重な経験だと思うので、どんな話ができるか楽しみです。また、香川に行くのも初めてなので、今からワクワクしています。香川の景色やうどんなどの食べ物を楽しみつつ、俳句について勉強していきたいです。

(2年1組 文芸部 菅原亜咲奈 栗駒中学校出身)

吹奏楽部

人に聴かせる音楽

アンサンブルコンテスト 県大会にて、32組の

団体が参加した中から数少ない金賞を受賞し、12年ぶりの

快挙を成し遂げました。地区大会前も含め、約2ヶ月にわたる練習は大変であったものの、顧問の先生や家族、その他多くの支援があったおかげで、本番も最後まで演奏しきることができました。また、今回の参加を通し、他団体の技量や表現の仕方を聴いて学んだ他、人に聴かせる音楽・心に響く音楽とはどのように表現すれば良いのかと、考えを深める機会ともなりました。東北大会進出までとはいきませんでした。結果に一喜一憂せず、気持ちを新たに切り替えて、来年度のコンクールに向けてこれからも日々の活動に励んでいきたいです。そして、古川高校吹奏楽部の演奏を多くの人に届けていきたいです。(2年2組 吹奏楽部 今野希星 岩出山中学校出身)



【東北大会等出場部】

【ソフトボール部】東北高校選抜大会 1回戦 古川 20-4 明桜(秋田) 準決勝 古川 2-9 郡山北工業(福島) <第3位>

【陸上競技部】第29回東北高等学校新人陸上競技選手権大会 女子走高跳 <第3位> 遊佐たまき(1年5組 千葉・鴨川中出身)

新生徒会長挨拶

生徒会活動に協力してくれている生徒の皆様、並びに生徒会活動に多大なる御支援を賜りました同窓会をはじめとする各関係の皆様へ深く感謝申し上げます。本校生徒会執行部は令和6年10月に代替わりを行い、2年生10名、1年生6名の計16名の新体制で活動しております。今年の生徒会執行部は、生徒たちがより快適な学校生活を行えるようにするために、総合委員会という決定機関を用いて学校生活に変化をもたらそうと考えています。また、学年を問わず様々な生徒が交流できるようなイベントも開催できたらと考えています。学習面については、ライバルと競い高め合っていけるような環境を学校に作りたくと考えています。しかし、生徒会活動に関心を持って意欲的に参加していただける生徒が少ないのは昨年から続く古高の課題です。多くの生徒に積極的に参加してもらえよう努力していく所存です。今年もどうぞ生徒会執行部をよろしく願います。(2年1組 生徒会長 阿部美斗 不動堂中学校出身)



新応援団長抱負



環境に揉まれろ

この度、応援団長を務めることになった津田美紅だ。長き伝統を持つ古川高校の団長として、その名に恥じぬよう、責任ある行動をしたいと思う。そして、守るべき伝統と変えるべき伝統を判断し、後世にも伝わる形を残す活動を行っていく所存である。さて、私は生徒諸君に伝えたい事が2つある。1つ目は、「出る杭は打たれる。出過ぎた杭は打たれない」だ。周りの目を気にして挑戦しないなんて勿体無い。実現したいことに積極的に取り組んでほしい。2つ目は「環境に揉まれろ」だ。古川高校には様々な地域から、優秀な生徒が集まってくる。生活面や学習面でいろんな生徒、そして先生方と関わり、有意義な高校生活を送ってほしい。令和7年度の定期戦は、本拠地古川高校での開催となり、尚且つ四連覇が懸かっている。昨年以上の大勝を収めるため、「古高の誇り」を胸に、一丸となって戦い抜くことをここに誓う。(2年4組 応援団長 津田美紅 栗原西中学校出身)



異文化に触れた修学旅行

修学旅行は今年度より関西と台湾の2コース設定の新たなスタイルになりました。私は台湾を選択し、様々な準備を進めてきました。幸いだったのは、修学旅行前に台北市の違う高校が2度来てくださり、交流機会を得られたことでした。英語・音楽の授業やずんだもち作り、買い物等を行い、日本と台湾の文化について互いに教え合ったりすることで仲を深めることができました。いよいよ台湾へ。5日間の行程の中、多くの体験や観光研修から台湾文化や歴史を学ぶことができました。また、古川高校に来てくれた大安高級工業職業学校を訪れ、再会を果たすとともに東日本大震災についてのディスカッション、授業体験、そして英語を使った深い交流ができ、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。観光研修では忠烈祠で見た衛兵交代式、九份の美しい夜景が印象的でした。この異文化に触れた修学旅行は自分の視野を広げるためにとても貴重な経験になりました。(2年3組 修学旅行実行委員長(台湾) 後藤美光 鹿島台中学校出身)

修学旅行を通して

模試や考査を経て、待ちに待った修学旅行。今年の修学旅行は国内と海外に分かれて実施され、約170名が国内での参加となりました。北野天満宮や金閣寺、清水寺に三十三間堂と全員で見学した場所のほかに、各々が選んだコースに行くコース別研修では京都、大阪、奈良、神戸の4つに分かれて研修を行いました。私は大阪コースに参加し、たこ焼きやチーズケーキなど大阪で有名なグルメを楽しみました。班別研修では班ごとに1日の計画を立て、好きな場所へ行きました。自主的に行きたい場所ややりたいことを考え、人力車に乗ったり、着物を着て歩いたりなど満喫することができました。また、ホテルでも楽しい時間を過ごしました。友達と部屋でお菓子を食べながらゲームや話をして仲を深めることができ、食事ではその日にあったことについて談笑したり、委員の一発芸にみんなで笑ったり、和気藹々とした雰囲気印象に残っています。今回の修学旅行で得られたたくさんの経験を今後にかかしていきたいと思えます。(2年3組 修学旅行実行委員長(関西) 藤山凜 田尻中学校出身)

